

Title	政治算術と経済学
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1929
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.23, No.1 (1929. 1) ,p.1- 22
JaLC DOI	10.14991/001.19290101-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19290101-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

東洋軒支店

□新橋驛階上 電話銀座四七〇

□丸ビル 電話九ノ内六七二

□有樂館地下室 電話九ノ内三八四

□生命保險協會地下室(丸ノ内) 電話九ノ内二八一七

□帝國劇場 電話九ノ内一七二二

□新橋演舞場 電話銀座二七二八

□列車食堂東京事務所 電話九ノ内一六六三

□赤坂三會堂 電話青山九

宮内省御用達

株式會社 東洋軒

電話高輪 二二八七二〇
二二八七七一

三田學會雜誌 第二十三卷 第一號

政治算術と經濟學

高橋誠一郎

Dugald Stewart 會つて其の Elements of the Philosophy of the Human Mind, 1792-1827. に

於いて曰く「前世紀の間に在りて、人口、國富及び其の他之れに附隨せる諸問題に關聯せる諸研究に其の注意を向けたる人々は二種に分たる、を得可し。吾人は是れ等の二種を區別するが爲めに、其の一に對しては『政治算術家』(political arithmeticians) 若しくは『統計的蒐集家』(statistical collectors) 他に對しては『政治經濟學者』(political economists) 若しくは『政治哲學者』(political philosophers) の稱號を與ふるを得可し。

前者は概して彼れ等を最負して經驗の證左を有するものと想像せられ、而して嚴密に Bacon の足跡を踏みつゝあるの名譽を僭稱して之れを自己に獨占せんとするを誤ること殆んどなきものなり。彼れ等に比して、後者は幻想家と殆んど何等選ぶ所なきものにして、然らざるも、少くとも彼れ等の結論が統計の細目と矛盾する時は、全然何等の信用にも値せざるものと考へらるゝ。 (The Collected Works of Dugald Stewart, Esq., F. R. SS., ed. Sir William Hamilton, vol. III, 1877, p. 331.)

實にロイアル・エクスチェンジの搖籃裡に育成せられたる英國の經濟學は、政治算術によりて、其の結論を照査し、吟味す可き重要な經驗的證左を與へられたるも、而も政治算術家は終に計表的事實の研究より引かれたる經濟學の體系を構成することなくして、臆がて其の道を倫理哲學者に譲れるものなり。

二

英國に於ける統計學の母たると共に、併せて又た經濟學成立史上に於いて重要な役割を演じたる「政治算術」に對して其の名稱を與へたる者は Sir William Petty なり。彼れは一千六百七十二年十二月十七日附を以つて、ダブリンより、初代の

Anglesea 伯 Arthur Annesley に宛てたる書簡中に於て斯くの如き成語を使用し、次
S^d 其の Discourse made before the Royal Society the 26th of November 1674, concerning the
use of duplicate proportions in sundry important particulars, 1674. に前附せられたる Epistle
Dedicatory to His Grace William, Lord Duke of Newcastle. に於て「此の世には尙ほ更らに
攻修せらる可き政治的算術及び幾何學的正義なるもの、存することと説き、應が
て又た「長く企圖せられたる政治算術の「見本」として其の Political Arithmetick, or A
Discourse concerning, The Extent and Value of Lands, People, Buildings; Husbandry, Manufac-
ture, Commerce, Fishery, Artizans, Seamen, Soldiers; Publick Revenues, Interest, Taxes, Superfac-
ration, Registries, Banks; Valuation of Men, Increasing of Seamen, of Militia's, Harbours, Situation,
Shipping, Power at Sea, &c. の稿を起すに至れり。 (Ibid., Preface. 本書脱稿の正確なる
年月は不明。大正九年版拙著「經濟學史研究」七九六—七九九頁參照)。

Petty が「政治算術」なる成語を使用せるは、彼れが何等の私情私心なく、不偏不黨、唯
り「久遠の法則と眞理の規矩とに従つて」 Political Arithmetick. 及び Political Anatomy of
Ireland. の著に従事しつゝある旨を述べたる前掲一千六百七十二年附の書簡に始

あることは既に Charles Henry Hull の研究に由りて明かなる所なるに拘らず、(The Economic Writings of Sir William Petty together with the Observations upon The Bills of Mortality more probably by Captain John Graunt, vol. I, 1899, pp. 239-240.) 他の點に於ては同氏の研究に依據せること明かなる博識なる Jacob H. Hollander が此の點に於ては只管 Stephan Bauer の History of Political Arithmetic. (Palgrave's Dictionary of Political Economy, vol. I, 1910, p. 56.) に依頼して此の名辭の使用を一千六百七十四年と記せるは奇と云ふ可し。(Adam Smith, 1776-1926, Lectures to commemorate the sesqui-centennial of the publication of "The Wealth of Nations," 1928, p. 4.)

Petty は實に其の政治算術の研究より得たる結果に據りて英國の國運は衰頽せりと做すの悲觀論者に對抗せるものなり。國富減退國家的破滅の不安は第十四世紀以來屢々英國を襲へる所にして、Petty の時代に於てはかの Sam. Fortrey の如きは其の Englands Interest and Improvement, consisting in the increase of the store, and trade of this Kingdom, 1663 に於て佛王路易十四世に提出せられたるものと稱せらるゝ出處極めて不明なる英佛間に於ける輸出入品目錄を掲げ年々英國に輸入せ

らるゝ佛國貨物が凡そ二百六十萬磅に達するに拘らず英國より佛蘭西に輸出せらるゝ貨物は一百萬磅を越ゆることなしと做し英國は之れが爲めに其の對佛貿易に於いて少くとも年々一百六十萬磅の損失を蒙りつゝあるものと論じたり。

(ibid., pp. 2285.) 而して又た A Discourse of Trade, in Two Parts. The first part treats of the reason of the decay of the strength, wealth, and trade of England. The latter of the growth and increase of the Dutch trade above the English, 1670. 及び A Treatise wherein is demonstrated that the Church and State of England are in equal danger with the trade of it: Treatise I. Reasons of the increase of the Dutch trade: Wherein is demonstrated from what causes the Dutch govern and manage trade better than the English; whereby they have so far improved their trade above the English: Treatise II, 1671. 等の著者 Roger Coke の如きは和蘭人が通商上英國人よりも一層低廉に一層多くの貨物を賣却して、之れよりも遙かに大なる利得を上げ、斯くて今や老大なる海上權を有するに至り、世界の如何なる強國と雖も之れを抑制し得ざるの概あることを論ぜり。(A Treatise, op. cit., pp. 128 129.) Coke は又た亞米利加植民地への移住を以つて、毛織物業及び漁業の如き英國の貴重なる諸

職業を衰微せしむるものと做し (Ibid. p. 16) 愛蘭も亦た同様の理由に據り英國に取りて不利益なりと主張せり。(Ibid. pp. 19-20)。

Pettyは當時世上に行はれつゝある英國の福利に對する不安を數へて曰く、地代が一般に下降せること、是れに由りて、又た多くの他の理由に據りて、全王國が日々に貧困の度を加へつゝあること、曾つては黄金を以つて、滿されたる王國も、今は金銀の兩者を有すること極めて少なきに至れること、人民に取りて何等の職業も仕事も存することなく、而も尙ほ土地は充分なる住民を有せざること、諸税が其の數多くして其の高大なること、愛蘭及び亞米利加に於ける植民地並びに其の他英國の主權に對して附加せられたる所のものが英國に取りて重荷なること、蘇蘭が何等の利益をも有せざること、一般交易の衰頹痛歎す可きこと、和蘭人が海上權の競争に於いて英國の踵に迫りつゝあること、佛蘭西人は英蘭兩國に對する競争上餘りに其の速力を増加し、彼れ等が其の隣人を併呑することなきは其の慈悲に外ならざるまでに富強なるの觀あること、而して最後に英國の教會及び國家が英國の交易と等しき危險に瀕せること等を擧げたり。(Political Arithmetick, 1690, Preface)。

Pettyを以つて觀れば外國貨物に對して費す所が輒近過大と爲り、我が延金の多くにして、若し貨幣として残存せんか、交易に資すること更らに大なる可く、自然、久しき習慣及び一般の同意によつてのみ支配せらる可かりし餘りに多くの事項が是れまで法律によつて制規せられ、最近の内亂及び疫病によりて人々の殺され毀はるゝこと大に、倫敦の火災及び和蘭艦隊のチヌナム攻撃の災禍が英國に不利なる世界の俗論を生じたるが如きは事實にして英國に取りて眞の損害と稱す可きものなり。然れども、倫敦の諸建築物は廣大莊麗と爲り、亞米利加の植民地は四百隻の船舶を使用し、東印度會社に於ける配當は元金の約二倍にして、確實なる擔保を提供し得るものは法定利子以下を以つて借入を行ふを得可く、建築材料(櫛材)すらは倫敦復興の爲めに殆んど其の價格を騰貴することなく、或るものは却つて低廉と爲り、取引所は従前の如く商人を以つて滿されたるの觀あり、街上に於ける乞食も、偷盜を行ひて處刑せらるゝ、其れも従前に比して毫も多きことなく、四輪大馬車の數も鹵簿の華麗も前代を凌駕し、公劇場は頗る壯大にして國王は英國の禍患以前よりも強大なる海軍と衛兵とを有し、僧侶は富み、大伽藍は修理せられ、多くの

土地は改良せられ、而して食糧の價格は高さに過ぐることなく、爲めに人々は愛蘭の牛を輸入して一層低廉に之れを取得することを拒めり。而してPettyは英國の國情が毫も痛歎す可き状態に在らざることを主張するが爲めには、單に比較級及び最上級の言葉のみを使用し、又た聰明なる論辯に據ることなく、數量又は尺の名辭に於いて其の意見を表明し、感覺の論證のみを使用し、自然の裡に現視的基礎を有する底の原因のみを考察し、特殊の人々の不定の心意、意見、欲求及び欲情に基くものは之れを他の人々の考察に委ねんとせるなり。(Ibid.)

而してPettyは其の政治算術的研究に據りて、佛蘭西の國力發展に對する過大なる見積を非難し、佛蘭西の領土は僅かに英國の其れを凌駕するに過ぎず、英國の人口は略々佛國の其れに接近し、而して佛國王が二萬七千の僧侶を有するに對し、英國王は二萬を有し、前者が一萬の海員を有するに對し、後者は四萬を有し、且つ一人の海員は普通の農民の三倍に相當する稼ぎを爲すが故に、斯くの如き海員の相違は農民六萬に等しきものと爲る可く、佛國の貧民は其の受くる賃銀、英國に於けるよりも概して少なきに拘らず、彼れ等の食料は概して英國に於けるよりも高價な

るが故に、英國に於いては佛國に於けるよりも餘利利得多きものと云ふ可く、英國庶民の費す所は佛國庶民の費す所と略々相等しく、佛國王が華奢莊嚴の點に於いて優れるは必ずしも其の人民の富の大を現すものに非ず、英國の人民は一人に就き佛國の人民よりも三倍の外國貿易、全世界の貿易の約九分の二、全船舶の約七分の二を有するものなることを主張せり。(Ibid., pp. 74-86.)

而して彼れが英國民の富を二億五千萬磅と計上し、其の年々の收入は一千五百萬なるに、全費用は四千萬に達するが故に、結局人民の勞働が他の二千五百萬を供給せざるを得ざるものと做せることは、吾人が他の機會に於いて述べたるが如し。(前掲「經濟學史研究」七八三頁以下參照)

三

是れよりして二十餘年の後に至り、宛もPettyがCoke等の悲觀論者に對したるど等しく、造幣所を以つて一國民が貿易によつて利得し若しくは損失する所を驗す可き試金石なりと做し、是れに由りて英國輓近の貿易が「勞症的」なりしを立證せる Britannia Languens, or A Discourse of Trade: shewing the grounds and reasons of the increase

and decay of land-rents, national wealth and strength, with application to the late and present state and condition of England, France, and the United Provinces, 1680. の著者に對して「造幣所を以つて一國民の外國貿易に對する主たる標準を認むることも能はざる旨を主張せるもの」は Charles Davenant なり。(Discourses on the Public Revenues, and on the Trade of England, 1698—The Political and Commercial Works of that celebrated Writer Charles Davenant, LL. D., vol. II, 1771, pp. 103—) (『三田學會雜誌』第十六卷第十號所載拙稿「チャールズ・ダヴェナントの經濟策」參照)。

Davenant は實に其の Discourses on the Public Revenues. に於いて政治算術によりて英國の公收入及び貿易を論ぜんことを企圖せるものにして、彼れは此の書中に於いて「政治算術」に定義を與へて曰く、吾人は「政治算術」によりて數字を以つて政治に關する諸事物を論究するの術を意味す」と。彼れは更らに語を續けて言ふ、這般の術其の者が頗る古きものなることは疑ひもなき所なるも、收入及び貿易の特殊の事物に對する其の適用は Sir William Petty はよりて初めて着手せられたる所にして、今日に至るまで尙ほ彼れの路を辿るもの極めて稀れなりと。(The Political and

Commercial Works of Charles D'Avenant, vol. I, 1771, p. 128.)

然れども Davenant は吾人が曩きに舉示せるが如き Petty の行へる英佛國力の比較を以つて疑ひもなく凡ゆる善良なる英國民が其の全部の眞なるを冀ふ所なるも、輒近此の大天才が這般の主張に於いて悉く誤れるの確證を得たりと做し、彼れを以つて是れに由りて其の本心を吐露するよりも、寧ろ機嫌取りの追従を行へるものなりと論じ (ibid., p. 130.) 羅馬の名將 Fabius Maximus が Hannibal の軍勢を破りたるは、其の測定的能力に依るものと做し (ibid., pp. 131-132.) 偉大なる政治家は凡ゆる種類の人々に諮詢し、又た彼れの建議せんとする如何なる計畫に於いても、其の國民の一般的狀態、其の勢力、兵力、交易、富及び收入を熟思し、各々の側に於ける支障を概括し、而して全體に就いて測定するに由りて、正しき判斷を形成し、適當なる勸告を與ふるを得可く、是れこそ即ち「政治算術」の意味する所のものなりと説けり。

(ibid., p. 135.)

「彼れは尙ほ大體に於いてマリーカンチリストの思想圏内に屬するものにして、貿易差額の誤らざる計算を以つて、如何なる交易が國家に取りて有害にして、如何な

るものが有利なるかを明かにす可きものと思惟せり。然れども、彼れを以つて觀れば、恐らく這般の差額は、政治算術に依るの外、發見せらるゝの道なきものなり。而して恐らく這般の術のみ唯り能く一の業務が他に依頼するの連鎖と英國の種々なる取引の總べてが相互に對して有する繫依とを明かならしむるを得るなり。貨幣を輸出する通商は、一見有害なるが如きも、而も吾人が數字に依つて事理を推究するに至る時は、這般の交易と雖も、开が他に拉し去る所よりも幾分多くの地金を齎す際には、有利なることを看出すなり。一方に於いて吾人に損失を與ふるの觀ある貿易も、之れに比して二倍の利益を與ふ可き他の貿易の原因たるを得るなり。(ibid., pp. 146-147.)

四

Duvenant が前掲書刊行の翌年を以つて公にせる An Essay upon the Probable Methods of making a People Gainers in the Balance of Trade, 1699. は彼れと等しき道を進める Gregory King の著にして未だ梓に上ることなき Natural and Political Observations and Conclusions upon the State and Condition of England, 1696. の一部を抄録せり。此の書は

後年 George Chalmers の Estimate of the Comparative Strength of Great Britain, and of the Losses of her Trade from every War since the Revolution, 1801. の附録として収録せられ、次いで同じき人によりて一千八百十年他の論文と共に、其の完本を公にせられたり。King は同書の第六節に於いて、紀元一千六百八十八年に於いて存したる英國諸家族の年々の所得及び費用を論じ、貴族は各々一ヶ年十磅だけ、此の國の富を増加し、勞働民及び戸外の仕事に従事する下僕は、各々一ヶ年二志だけ之れを減じつゝあるの觀ありと做し、歐洲に於いては英佛蘭並びに普く全世界に存する金銀の定量を掲げ、其の第七節に於いては、英國に於ける諸種の土地と其の價值及び收益を論じ、十分の一、十分の二の收穫の不足が穀物の價格の上に及ぼす影響を計量せり。後世の謂ゆる「グレーゴリー・キングの法則」なるものは是なり。

第十八世紀に入りて Erasmus Phillips は The State of the Nation in respect to her Commerce, Debts, and Money, 1725. を著し、人頭税及び内國消費税の收入を基礎として國富を研究し、次いで Andrew Hooke は其の An Essay on the National Debt and National Capital, or, the Account truly stated, Debtor and Creditor, 1750. に於いて國債の存在が毫も國家に取

りて危険なるものに非ざるを立證するが爲めに、其の高と其の國の資本的富とを比較し、一國の鑄貨は常に其の富の自餘のものに對して同一の割合を維持せざる可らざるが故に、國富の増加は流通裡に於ける鑄貨の定量によりて測定せらるゝと做し、國民的資本を以つて第一、現金資本即ち鑄貨、第二、動産資本、即ち金銀製品及び地金銀、寶石、環、家具、被服、船舶、營利資本、消費資本及び家畜、並びに第三、土地資本即ち國內に於ける凡ゆる土地の價值と做し、動産資本の價值を以つて流通裡に於ける鑄貨の高の二十倍と推定し、一千六百年より一千七百五十年に至る資本の増加を積算し、之れに地所及び家屋の價值を加へて、總額十億磅即ち一千七百五十年に於ける國債總高の十二倍半に達するものと做し、更らに Bath 伯 William Paley は其の *Considerations on the Present State of Public Affairs*, 1779 に於いて、大武列頓全部の富は現今に於いては二十億を超過すること頗る大なるものと認め、而して其の中には土地、家屋、各種の在貨の價值及び製造原料、船舶、現金、自國內の住民に對して負へる公債及び國外の人々が吾人に對して負へる債務中に存する貨幣を包括するものなるも、吾人が他國に對して負へる同様の債務は之れを控除す可きものと做し、結

局富若しくは財産と名附け得可き總べての物を這裡に包括し (ibid., p. 27.) Arthur Young は其の *Political Arithmetic*, containing *Observations on the Present State of Great Britain; and the Principles of her Policy in the Encouragement of Agriculture*, addressed to the *Economical Societies established in Europe*, 1774 に於いて、一國農術の繁榮を以つて鑛坑の成果に非ずして勤勉の結果たる其の國富の量に比例するものと觀じ (ibid., p. 46.) 一千七百七十九年を以つて公にせられたる此の書の第二部に於いて國富の研究に政治算術を使用せりと雖も、而も政治算術は Charles Davenant 以後萎靡不振の状態を持續し、國富算定の方面に於ける斯術は新所得税に基ける研究と共に事實上終末を告ぐるに至れり。而して人口統計の方面に於ける政治算術家の努力 (三田學會雜誌第十五卷第五號所載拙稿「人口學說史上に於けるグロント及びベチイ」參照) は亦た大體に於いて一千八百〇一年の國勢調査と共に終末を告げたり。 (Bauer, op. cit., p. 56; Hollander, op. cit., p. 9.)

五

斯くの如き間に於いて經濟學は政治哲學者の手によつて大成せられたり

Thomas Hobbes は其の經濟學に關する一般觀念を其の最も有名なる論篇 *Leviathan*, or the Matter, Forme, and Power of a Common-wealth ecclesiasticall and civil, 1651. の第二部第二十四章「國家の榮養及び生殖中に於いて表明せり。(Ibid., pp. 127-131)」。光榮革命の哲學者 John Locke の *Some Considerations of the Consequences of the Lowering of Interest, and Raising the Value of Money*, 1692. は既に或る程度まで經濟學汎論たるの性質を具有し、科學としての經濟學の成育に取りて必要缺く可らざる哲學的知識の援助を之れに與へたるものなり。一千七百二十九年より同四十九年に亘りグラスゴウ大學に於いて倫理哲學を講じたる Francis Hutcheson が一千七百四十五年の著 *Philosophiae moralis institutio compendiarie ethices et jurisprudentiae naturalis elementa continens*, libris III. 第四十七年を以て *A Short Introduction to Moral Philosophy in three books, containing the Elements of Ethicks and the Law of Nature*. の題下に出版せられ、其の第三編は「經濟學及び政治學原理」と題せられたり。而して彼れの薰陶を受けたる David Hume が *Political Discourses*, 1752. は銳利なる推理と正確なる判断とを以つて重要な經濟上の諸問題に就きて總決算を行へり。而して又た若くして Hutcheson の講

筵に列し、是れに由りて多大なる感化を受けたる前グラスゴウ大學倫理哲學教授 Adam Smith の「國富論」は一千七百七十六年三月九日を以つて世に公にせらるるに至れり。

然らば經濟學祖 Adam Smith は果して如何なる態度を以つて政治算術に對したるか。彼れは其の大著の第四編第五章に於いて穀物交易及び穀物條令を論ずるに當りて曰く「余は決して大なる信用を政治算術に措くものに非ず、而して余は斯くの如き計算の孰れのもの、正確をも保證するものに非ず。余は唯だ最も思慮あり經驗ある人々の意見を以つてすれば穀物の對外交易が國內交易に比して如何に重要な程度少なきかを知らしむるが爲めに之れを擧示するのみ」(Ibid., ed. 1776, p. 121)。

而してエジンバラオ大學に於ける倫理哲學の講座を擔任せる Dugald Stewart は、余が本篇の劈頭に於いて引用せる章句の直後に於いて、政治算術及び經濟學の孰れのもの、雖も、何等かの眞價を有する限りは、并ば十分に確知せられたる事實の基礎の上に存せざる可らずと做し、而して兩者間の相違を以つて單に彼れ等が

各自其の關はれる事實の性質の相同じからざるに存するものと觀たり。統計的蒐集家によりて蓄積せられたる事實は、他の人々が確證し若しくは駁撃するの機會を殆んど有することなく、又た孤立せる状態に於いて是れ等のものを考察せる者に對しては斷じて何等重要な知識をも與ふることなき單なる特殊的歸結に過ぎず。政治哲學者が探究すると公言する事實は凡ゆる人類の檢討に供せられ、而して是れ等のものが物理學の一般法則の如く、彼れをして綜合的推理に依りて無數の事項を確知するを得せしむる一方に於いて、是れ等のものは特殊の觀察者の口供に基ける證據の信を措く可きことを見積るの手段を供給す。而して Stewart は、大なる信用を政治算術に措くものに非ずと稱したる前記 Smith の言を掲げ、人事の經過を支配する「一般法則」に基づける結論に對する反對論として論述せられたる時、殆んど何等の注意も「特殊現象」に對して拂はる可きに非ずと思惟する限りに於いて彼れは Smith と一致すと説けり。彼れ以爲らく、縱令ひ當該事情が正確に觀察せられ、又た忠實に叙述せられたりとするも、尙ほ吾人は其の結果が變更せらるゝ諸事情の組合せに通曉すること不完全なることあり得可く、又た是れ等

の事情が充分に吾人の前に存するとするも、此の外見上の例外は开が之れを無効ならしむるが爲めに誘致せられたる其の眞理、其の者の追加的例示と爲ることあり得可しと。而して斯くの如き觀察にして正しからんか、經濟學の結論を照査するが爲めに政治算術に訴ふるよりも、寧ろ政治算術の妄斷を抑止するが爲めに經濟學に依頼することが往々にして一層合理的なる可きものなり。彼れは又た這般の主張を以つて、政治算術家の目的が人類の一般的經驗によりて承認せられたる諸法則に對して外觀上の例外を表示することに餘りに屢々にして、從つて又た主張せられたる例外と一般原理との間に顯然たるか若しくは指示的なる矛盾の存する場合には、正當なる論理的推究は後者の眞なることを否定せずして、前者の可能性を否認するの事實を考察せる人々に對して決してバラドックスたるの觀あらざる可しと説けり。(Collected Works, op. cit., pp. 331-332.)

Smith の「國富論」に於ける主要原理の全部は悉く一般的事實なりと看做されたり。T. R. Malthus が其の「人口論」の改訂に際して取れる研究方法は歸納的にして、彼れの推理は歴史的、統計的事實に基づけるものと稱せらる。而も彼れは其の一千七百

九十八年の「人口論」に於いて、早く既に Godwin 流の樂天的幻想を破壊す可き一般的原则を提唱せるものにして、彼れが初め假設的將來を研究せる此の論文は、聽がて彼れをして過去及び現在の社會状態に照して、其の提唱せる原理の効果を討査せんとするの努力を導けるなり。洵に Nathus は其の歴史的統計的研究に入るに先立ちて、既に其の根本的原则を表明せるものなり。而して一八八〇三年の改訂版に現れたる諸國の歴史的統計的事實の苦心慘憺たる引用も、かの積極的抑制に加ふるに、有意的若しくは倫理的抑制を以つてし、悻徳の行爲に依りて出産を防ぐの風を避けて、各人に晩婚の風を鼓吹せる點を除いては、毫も曩きには未だ充分に知悉せらるゝことなかりし一般的结果を確立するに至ることなかりしなり。従つて這個歴史的統計的事實の引用は、又た其の理論を、一般的觀察に依りて明白なる事實の上に於ける James Mill 及び其の他の人々によりて無視せられたるなり。James Mill は一定少數の原則よりして政治及び厚生の諸法則を發達せしめ得可しと思惟せるものなり。

英國正統派の經濟學は主として抽象的演繹的科學として發達せり。J. S. Mill は經濟科學を以つて、本來抽象科學として、又た其の方法を以つて先驗的として特性附けたり。彼れ曰く「吾人は先驗的方法が倫理科學に於ける哲學的研究の正當なる方法たるを肯定するに止らず、更らに進んで、开は唯一の方法たることを主張す。吾人は後驗的方法、即ち特殊の經驗の其れは、常に先驗的方法の補助として適用せられ得るものにして、又た其の必須の補充をすら構成するものなるも、而も貴重なる真理の或る重要な一體に到達するの手段としては、這般の科學に在りては、全然效果なきものなり」と。(Essays on some Unsettled Questions of Political Economy, 1844, p. 146)。而して彼れは Bacon によりて演繹的より經驗的に變ぜしめられたる科學的方法が今や急速に經驗的より演繹的に復歸しつつあるを觀たり。(A System of Logic, ratiocinative and inductive, being connected view of the principles of evidence and the methods of scientific investigation, 7th. ed., 1868, vol. 1, p. 539)。而して統計の經濟學に對する關係は、J. E. Cairnes によりて、开が演繹的階段に到達せる他の諸科學に對して並つ所のものと毫も異なることなきものと論ぜられたり。(The Character and Logical Method of Political Economy, 1875, p. 86)。而も斯くの如き簡單なる排斥が決して

て是認せらる可きに非ざることは必ずしも John Neville Keynes の言を俟つて初め
て知る可きに非ざるなり。(The Scope and Method of Political Economy, 1891, pp. 324 ff.)

英國に於ける労働者階級の發生

野村 兼太郎

英國が第十八世紀末に於いて産業革命を惹起し、新しい工場制度を設立するに
至つたが、かくの如き制度の下に於いては當然多數の無産労働者の存在を必要と
する。如何にしてかくの如き労働者の集團が英國に於いて存在するに至つたか
を明かにするのが本論文の目的である。勿論個々の労働者の個人的事情に依る
發生には例外的なものが少なくないであらう。しかしこゝでは如何なる社會狀
態に依つて、如何なる階級の者が無産労働者となるに至つたかを全般的に説明し
ようとするのである。即ち英國に於ける産業革命に際し重要な役割を演じ、現
在社會の重要な分子を構成する賃銀労働者の淵源を探らんと欲するのである。